

ワークショップ あなたも一緒に条例づくり

身の回りにある小さな疑問、おかしな事...話し合ってみませんか？

家庭・職場・地域・学校などあらゆるところで男性も女性も手を携え、気持ちよく暮らすことのできる社会を目指すために、倉吉市の特色ある男女共同参画推進条例づくりを進めようとしています。一人でも多くの皆さんの声が反映された条例となるよう、共に考え話し合しましょう。

ワークショップとは：市民が市政やまちづくりに学習しながら参画すること。

ワークショップ開催日程と会場

6月5日(土) 19:30~21:00
上井地区公民館

6月5日(土) 19:30~21:00
上北条地区公民館

6月12日(土) 19:30~21:00
小鴨地区公民館

6月12日(土) 19:30~21:00
西郷地区公民館

6月19日(土) 19:30~21:00
明倫地区公民館

6月19日(土) 19:30~21:00
成徳地区公民館

6月19日(土) 19:30~21:00
上小鴨地区公民館

6月26日(土) 19:30~21:00
上灘地区公民館

6月26日(土) 19:30~21:00
高城地区公民館

6月26日(土) 19:30~21:00
北谷地区公民館

7月3日(土) 19:30~21:00
灘手地区公民館

7月3日(土) 19:30~21:00
社地区公民館

参加しやすい公民館を選んでご出席ください。

主催：倉吉市男女共同参画推進条例をつくる会

申込・問い合わせ先：人権政策課男女共同参画係 (☎22-4891 ☎22-4901)

至宝の弦楽クラシック チェコ・フィル合奏団

と き：7月6日(火) 18:30開演(18:00開場)

と ころ：倉吉未来中心大ホール

日本でも人気の高い、ヨーロッパの名門、あのチェコ・フィルハーモニー管弦楽団の選りすぐりの名手たちがチェコのカリスマ・ヴァイオリニストと来倉します。演奏されるのは、誰もが知っているクラシック癒しの名曲の数々。しかもソプラノとバリトン歌手も同行しての豪華編成です。弦の国の優しく懐かしい響きを未来中心の大ホールで味わってください。



入場料：S席3,500円(3,000円) A席2,000円(1,500円)
小~大学生1,000円(500円) 全席指定

()内は、(財)鳥取県文化振興財団友の会会員・団体(5名以上)料金。

未就学児のご入場はお断りいたします。

プレイガイド等詳しくはお問い合わせください。

問い合わせ先：倉吉未来中心(☎23-5390)

二十世紀梨導入100年記念事業大好評！

「鳥取二十世紀梨記念館」

パークスクエア内梨記念館では、鳥取県に二十世紀梨が導入されて今年で100年になるのを記念して、『梨ガーデン』のリニューアルと、二十世紀梨の栽培に尽力した先人を紹介する『梨人物展』を新設し、入館者が増加するなど大変好評です。



本物の梨の木を身近に観察することができる『梨ガーデン』では、「梨の木をはじめて見た」と感激され、先日入館者が幼果(ようか)の小袋かけに挑戦され喜ばれています。また、『梨人物展』では「二十世紀梨導入当時の様々な資料がよく残っている」と興味深く展示をご覧になる方が多いです。

同記念館では、今後も「梨ガーデン」を活用した体験活動を計画するなど、本物の梨にふれる機会を増やしていきます。ご来館お待ちしております。

問い合わせ先：鳥取二十世紀梨記念館【毎月第3月曜日休館】

(☎23-1174)

創作絵本「平成打吹伝説」 を自費出版

5月15日に、藤井正幸さん（倉吉市巖城）が、創作絵本「平成天女伝説」を自費出版されました。

内容は、筆者が幼い頃に伝え聞いた羽衣伝説に、鳥取県中部地方の歴史、文化、産業などをもりこんだ内容で、東郷町の羽衣石山、倉吉市の打吹山、中部の4つの温泉、二十世紀梨等の特産物、倉吉餅（かすり）などが登場しています。

倉吉図書館、市役所・市長と市民のふれあいコーナーに備え付けていますので、ご覧ください。



藤井正幸さんが自費出版された「平成天女伝説」

これより先、若手を発掘するNHK歌謡コンサートに、打吹山を題材にした「花天女」のペペが登場し、地元出身として、多くの市民に声援映されます。

倉吉未来中心では打吹公園開園百周年を記念して、「BS日本のつた」の収録が行われ、六月六日に全国放映されます。

これら行政だけではとても対応できないこととあり、市民自らの立ち上がりで協働することにより、実現できています。

十二日には、西倉吉工業団地内の街路樹の緑化行動を行います。昨年、野球場の塗装を百六十人のボランティアで仕上げたように、鳥取県造園業協会中部支部の協力を頂いて、みんなの力で新たな景観をつくっていきましょう。

消えゆく郷愁の風景展として、地域に根ざした作家の油絵展の案内葉書を机の上に置きながら、会期が終わってしまったことに後悔しました。

倉吉市長 長谷川稔

時節到来



◎谷口ジロー『道かな町へ』小学館

を送っていたいただきました。最近、市民の底力を感じ、お一人お一人秘め、発揮いただく場面に出会い、胸を熱くすることがあります。

高城地区では高齢者の移動手段に役立ちたいと三十二名の方が運転手を買ってでいていただき、当番制で週三回、バス利用者の復路を待ち構え、バス停から、集落、自宅までを送っていただくことが開始されました。

また、各地区敬老会は準備から当日の運営まで地区公民館、自治公民館役員、民生委員さんなどにお世話になっており、市主催というものがましく、市長挨拶を後廻しにしておもったくらしいです。

「国際化が進む中で」

「国際化」が進んでいる今、他国の異文化や価値観の尊重、外国の人との共生などに向けた国際理解に努め、国際社会に対応したまちづくりの推進が求められています。



今、私たちの日常生活は、外国との関わりを抜きにしては成り立たなくなっています。例えば、子どもの頃から外国語に親しみ、カタカナ用語の使用数も増え、食材の輸入依存・食生活の欧米化、海外の有名ブランド品の購入、さらにはテレビやインターネットによる容易な情報収集等々、日々の衣・食・住の生活の中には外国との何らかの関わりが強く、「国際化」が一段と進展している現状にあります。

そんな中で、私自身が最近外国人とふれる機会が多くなったごく身近な場所での「国際化」があります。本市の外国人登録者数は、十七カ国、二八九人で、就業・留学のほか国際結婚や出生によって倉吉市民になられた人も含まれます。帰化や国籍変更の形で本市で生活を送っている人もいることを忘れてはなりません。私の子どもが通う保育園にも、このような背景をもって暮らしている人との「国際理解活動」があります。

「倉吉市あらゆる差別をなくする総合計画」には、在住外国人施策が明記され、その中には就学前教育の推進の指針も掲げられています。この保育園にその取組みが必要とされる実態があるからこそ、子どもと保育者・保護者とが在住外国人に対する正しい理解と共通の認識を持つことができ、より有益な保育実践がなされています。

しかし、市民の中には、外国の人とトラブルや問題があったわけでもないとして、国際理解に努めようとする意識は決して高くないのが現状のようです。まず、子どもの頃から異文化に慣れ親しむことや保育者の国際理解体験と指導力の向上、そして保護者相互の連携や人権学習・研修会等への参加がその第一歩です。それがお互いの「違い」を認め合う人間関係の育成や国際的な人権感覚の醸成につながると思います。

差別のない明るい社会へ

今後、国際化はさらに進み、多様化していく国際社会情勢の中で、保育者と保護者・関係機関が共に協力し、幼少期からの国際理解教育等を通して人づくりに取り組むことで、国際化に対応したまちづくりをさらに推進していきたいものです。

（部落解放・人権啓発資料作成委員会 谷本）

